Takahama Kyoshi × Sakamoto Shihouda

【参考】
『郷土出身文学者シリーズ９　阪本四方太』

四方太は鳥取県尋常中学校を経て、京都の第三高等中学校に進学します。しかし明治27年、学制改革により第三高等中学校が廃止され、仙台の第二高等学校に転校した際に高浜虚子と出会いました。四方太は虚子に俳句を教えてほしいと頼み込み、句作を始めたところ、日がたたないうちに正岡子規が選者をつとめる新聞『日本』の俳句欄に掲載されました。気をよくした四方太は、そこから俳人の道を歩み始めました。

また、四方太は虚子に俳号の命名を依頼しました。虚子は「四方太（よもた）」という字面の面白さを生かし、音読みの“しほうだ”にすることを提案し、そのまま採用されました。

四方太が亡くなった翌年の昭和７年、虚子が追悼の意を込め旧居を訪れました。その時の様子は、『ホトトギス（第41巻第５号）』（昭和13年２月）に記されています。

高浜虚子（たかはまきょし）と阪本四方太（さかもとしほうだ）

さかもとしほうだ

阪本四方太

俳人・文章家 明治 6（1873）年～大正 6（1917）年

岩井郡大谷村（現在の岩美町大谷）に生まれる。本名四方太（よもた）。

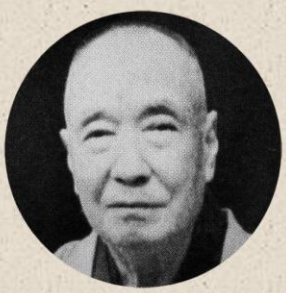
第二高等学校在学中より俳句を始める。東京帝国大学に進学後、俳誌『ホトトギス』の同人および選者として活躍。鳥取に近代俳句を導入した先駆者であり、俳句グループ「卯の花会」を指導した。

東京帝大附属図書館司書を務めながら正岡子規門下の俳人として新俳句と写生文の開拓普及に大きく貢献した。

代表作『夢の如し』は写生文として夏目漱石に絶賛された。

◆代表作『寒玉集』『新写生文』『夢の如し』

【肖像写真】鳥取市立中央図書館蔵



たかはまきょし

高浜虚子

俳人・小説家 明治 7（1874）年～昭和 34（1959）年

愛媛県に生まれる。本名高濱清(きよし)。

明治 27 年(1894 年)に第二高等学校を退学し、上京。明治 31 年(1898 年)、正岡子規から俳句雑誌『ホトトギス』を継承し、発行所を松山から東京に移す。以後昭和 26 年（1951 年）にそのポストを長男年尾に譲るまで編集兼発行人を務め、俳句のみならず写生文「浅草寺のくさぐさ」や小説「斑鳩物語」など、精力的に投稿を続けた。

昭和 29 年（1954 年）に文化勲章を受章。

◆代表作『虚子句集』『俳句の五十年』『虚子自伝』

◆代表句「遠山に日の当たりたる枯野かな」「ふるさとのこの松伐るな竹切るな」

【肖像出典】「Century books 人と作品 13 高浜虚子」福田清人・前田登美／編著【参考】『四国近代文学事典』

近代鳥取文学年表

赤字……近代日本の文学史
青字……世の中のできごと
緑字……鳥取県のできごと

年号	西暦	鳥取文学の歴史	近代日本文学の歴史　世の中のできごと
慶応 3	1867		・夏目漱石、正岡子規誕生。
明治 6	1873	・2月4日、**阪本四方太**が岩井郡大谷村（現在の岩美町大谷）に生まれる。本名四方太（よもた）。	・与謝野鉄幹誕生。
7	1874		・高浜虚子誕生。
9	1876		・鳥取県廃止、島根県に併合される。
10	1877	・2月16日、田中寒樓が八上郡小畑（現在の鳥取市河原町小畑）に生まれる。本名國三郎。 ・10月4日、**伊良子清白**が八上郡曳田村（現在の鳥取市河原町曳田）に生まれる。本名暉造。	
11	1878		・与謝野晶子誕生。
14	1881		・鳥取県再置、現在の鳥取県が誕生する。
15	1882	・3月21日、**生田長江**が日野郡根雨町（現在の日野町）に生まれる。本名弘治。	
17	1884		・荻原井泉水誕生。
18	1885	・1月20日、**尾崎放哉**が邑美郡吉方町（現在の鳥取市立川町）に生まれる。本名秀雄。	
19	1886		・萩原朔太郎誕生。
22	1889		・大日本帝国憲法発布 ・鳥取市制施行
25	1892	・3月12日、**生田春月**が米子町（現在の米子市）に生まれる。本名清平。	
27	1894	・**四方太**、仙台の第二高等学校大学予科で高浜虚子に出会う。この時虚子が、四方太の俳号を「しほうだ」と名付ける。 ・**清白**、京都の私立医学予備校へ入学する。『少年園』『少年文庫』に投稿を始める。	・日清戦争（～1895年）
28	1895		・文芸投稿雑誌『青年文』刊行。
29	1896	・12月9日、**池田亀鑑**が日野郡福成村（現在の日南町）に生まれる。 ・12月20日、**尾崎翠**が岩井郡岩井宿（現在の岩美町岩井）に生まれる。	・宮沢賢治誕生。

年号	西暦	鳥取文学の歴史	近代日本文学の歴史　世の中のできごと
明治30	1897	・3月21日、河本緑石が東伯郡社村（現在の倉吉市）に生まれる。本名義行。 ・11月、『ホトトギス』に「卯の花会」発足の記事を掲載。 ・寒樓、「卯の花会」で四方太と知り合い俳句に親しむ。また、新聞『日本』に投書し、正岡子規の選を受ける。	・1月、松山市で俳句雑誌『ホトトギス』創刊。
明治31	1898	・四方太、『ホトトギス』の俳句選者となる。	
明治32	1899	・寒樓、「因幡に寒樓あり」と正岡子規に絶賛される。　10月、四方太に伴われ、子規庵を訪れる。	
明治33	1900	・放哉、四方太に兄事し、俳句を発表する。 ・清白、鳳晶子（与謝野晶子）と会う。また、筑波の横瀬夜雨を訪ねる。	・与謝野鉄幹、『明星』創刊。
明治34	1901	・長江、回覧同人雑誌『夕づつ』に参加する。	
明治35	1902	・放哉、第一高等学校法科に入学。 ・長江、与謝野鉄幹・晶子夫妻を知る。明治36年から38年にかけて『明星』に評論、美文、翻訳を発表する。また、馬場孤蝶に師事する。	・正岡子規死去。
明治36	1903	・放哉、一高俳句会に参加。ここで荻原井泉水に出会う。 ・寒楼、『春夏秋冬』に38句が選ばれる。	・林芙美子誕生。
明治37	1904	・長江、英国から帰国した夏目漱石の講義を聞く。 ・清白、詩「日光月光」「漂白」などを『文庫』に送る。	・日露戦争（～1905年）
明治38	1905		・夏目漱石、『ホトトギス』に「吾輩は猫である」を発表。 ・大江賢次誕生。
明治39	1906	・清白と長江、倉光芳造の主宰する『金箭』にそれぞれ作品を寄稿。 ・清白、『孔雀船』を刊行。	
明治40	1907	・長江、千駄ヶ谷の与謝野鉄幹・晶子夫妻の隣家に住む。 11月、夏目漱石序文付『草雲雀』『文学入門』を出版。 ・四方太、『ホトトギス』に「夢の如し」の連載を始める。	
明治41	1908	・春月、長江宅を訪れる。 ・長江、『夏目漱石論』を発表。またこの年から翌年にかけ、漱石の紹介で「モルモン経」の文語訳を手がける。	
明治42	1909	・春月、長江の紹介で新潮社の「文章講義録」の文章添削に従事する。 ・夏目漱石が東京朝日新聞紙上に「それから」を連載。登場人物の寺尾は、長江がモデルと言われる。	
明治43	1910	・春月、新詩社の歌会に出席し、憧れの与謝野鉄幹・晶子に出会う。 ・長江、執筆原稿の掲載をめぐり、夏目漱石との間に亀裂が入る。	・韓国併合
明治44	1911	・長江、ニーチェの『ツァラトゥストラ』の翻訳を刊行する。	・荻原井泉水、自由律俳句雑誌『層雲』を創刊。

緑石

年号	明治	大正													昭和		
	45（大正元年）	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15（昭和元年）	2	3	4
西暦	1912	1914	1915	1916	1917	1918	1919	1920	1921	1922	1923	1924	1925	1926	1927	1928	1929
鳥取文学の歴史	・長江、『新小説』に「夏目漱石氏を論ず」を発表。	・緑石、荻原井泉水に師事、自由律俳句を学ぶ。 ・春月、西崎花世と結婚する。	・春月と長江、ドストエフスキー『罪と罰』を共訳で刊行。 ・長江、衆議院議員選挙に立候補した与謝野鉄幹の応援に出かける。	・亀鑑、溝口尋常高等小学校に訓導として赴任。この時、大江賢次を教える。 ・放哉、『層雲』に参加する。	・緑石、宮沢賢治らとともに盛岡高等農林学校アザリア会に参加する。 ・5月16日、阪本四方太死去。 ・春月、『霊魂の秋』により、詩人として認められる。	・緑石、『アザリア』第6号で初めての詩を発表する。また、萩原朔太郎の影響を受ける。	・『日本詩集』の発刊を記念し、春月、萩原朔太郎ら15人が詩話会委員に選出される。この時二人は初めて顔を合わせる。 ・亀鑑、「池田芙蓉」のペンネームで少年少女向けの小説を発表する。	・伊福部隆彦が長江のもとを訪れる。 ・翠、「無風帯から」が『新潮』に掲載される。	・春月、島崎藤村生誕50年記念祝賀会の発起人となる。	・翠、鳥取の水脈社同人となる。	・春月、『相ひ寄る魂』が完成する。 ・長江、関東大震災の記録「震災記事」を残す。	・緑石、宮沢賢治から『春と修羅』『注文の多い料理店』を贈られる。	・放哉、8月荻原井泉水に見送られ小豆島へ向かい、南郷庵に入る。 ・緑石、句会で放哉に会う。また、詩集『夢の破片』を刊行する。	・翠、1月に在京の県出身者による「鳥取県無産県人会」が組織され、会員となる。この時春月夫妻、長江と出会う。 ・4月7日、尾崎放哉死去。 ・6月、荻原井泉水が『放哉俳句集　大空』を刊行。 ・緑石、荻原井泉水らを招き、句会を行う。	・翠のもとに林芙美子が訪ねてくるようになる。	・大江賢次が長江のもとを訪ねる。	・緑石、放哉の句碑建立のため、自身の俳画個展を開催する。 ・翠、「アップルパイの午後」が『女人芸術』に掲載される。
近代日本文学の歴史　世の中のできごと		・第1次世界大戦（～1918年）		・夏目漱石死去。		・米騒動		・国際連盟発足、日本が常任理事国となる。			・関東大震災		・普通選挙法公布 ・ラジオ放送開始		・米子市制施行		・世界恐慌

放哉

四方太

年号	西暦	鳥取文学の歴史	近代日本文学の歴史　世の中のできごと
昭和			
5	1930	・4月、鳥取市興禅寺に放哉の句碑を建立。 ・5月19日、生田春月死去。 ・『生田春月追悼詩集　海図』に、萩原朔太郎が「生田春月君に就いて」を寄せる。	
6	1931	・寒楼、「母に別る」39句を残す。	・満州事変 ・鳥取県立鳥取図書館が開館。
7	1932	・寒楼、高浜虚子一行を迎え10月に行われた浜坂砂丘吟行会に参加する。 ・高浜虚子が、松江で開催されたホトトギス山陰大会の帰途に鳥取に立ち寄り、四方太の旧居を訪れる。	・5．15事件
8	1933	・7月18日、河本緑石死去。	・宮沢賢治死去。 ・国際連盟脱退
9	1934	・緑石の句碑「あらうみのやねやね」に荻原井泉水が揮毫し、農林学校内に建立。	
10	1935		・与謝野鉄幹死去。
11	1936	・1月11日、生田長江死去。	・2．26事件 ・大山が国立公園に指定される。
13	1938	・清白、岩波文庫より『孔雀船』刊行。	
16	1941	・亀鑑、学位論文「古典の批判的処置に関する研究」を提出する。	
17	1942		・萩原朔太郎、与謝野晶子死去。
18	1943		・鳥取大地震
20	1945		・終戦
21	1946	・1月10日、伊良子清白死去。 ・寒楼、古希記念句集『しも』を出版する。	・日本国憲法発布 ・林芙美子死去（1951年） ・鳥取大火（1952年） ・倉吉市制施行（1953年）
30	1955	・亀鑑、東京大学文学部教授に就任。	
31	1956	・亀鑑、『源氏物語大成』完結。 ・12月19日、池田亀鑑死去。	・境港市制施行（1956年） ・大江賢次『絶唱』刊行。（1958年） ・高浜虚子死去（1959年）
35	1960	・花田清輝、翠を賞賛する。	
45	1970	・3月12日、田中寒楼死去。	・大阪万博
46	1971	・7月8日、尾崎翠死去。	・大山国体（1972年） ・荻原井泉水死去（1976年） ・わかとり国体（1985年） ・大江賢次死去（1987年）

◆会　期：平成 25 年 10 月 25 日（金）～11 月 29 日（金）

鳥取県立図書館 郷土資料課

〒680-0017　鳥取市尚徳町 101

電 話 0857-26-8155　ﾌｧｸｼﾐﾘ 0857-22-2996

Eﾒｰﾙ kyodo@library.pref.tottori.jp